

小 / 理科 / 5年 / 生物と環境 /
植物の花と実 / 理解シート

アサガオの花のつくりは、どうなっているの



アサガオは、花びらが一つにくっついていて、中にはおしべ5本、めしべ1本があり、がくもあるよ。

アサガオは、一つの花の中のめしべとおしべだけで、たねができる

アサガオの花は、花びらがくっついて一つになっているのが、特ちょうです。

アサガオの花を切ってみると、図のように、真ん中のめしべより、おしべのほうが長いものが多いはず。アサガオは、まだ暗い早朝につぼみが開きはじめます。

アサガオの5本のおしべは、つぼみのときにはめしべより短くて、花が開くころになると、順にめしべの頭には花粉をこすりつけながら、上にのびます。花が開いたときには、おしべのほうがり長くなり、めしべのちゅうとう柱頭には花粉がたっぷりつきます。そのため、虫がこなくても、アサガオにはたねができます。

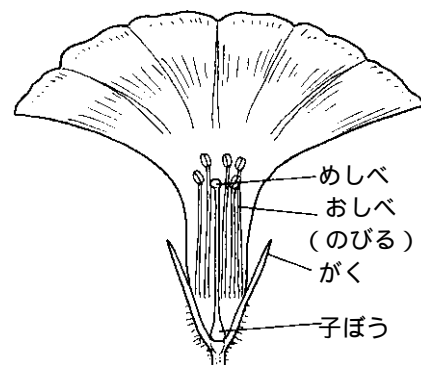
ヒルガオや、サツマイモの花は、花の形がアサガオによくにっています。

別な株かぶの花粉をもらうと、病気などに強いたねができる

たいていの花は、できるだけ、同じ種類の別の株にさいた花の花粉をもらえるように、みつを用意して虫を集め、花粉を運んでもらうようにしています。

同じ種類の別な株の花粉がついてできるたねは、めしべの株と、花粉の株との両方を親にもつたねになり、両方の株の性質を受けついでいます。人間が、父親と母親の両方から性質を受けついで、両方にたところがあるのと同じです。

同じ株や、同じ花の花粉がめしべについてできるたねは、一つの性質しか受けつげないため、病気やかんきょうの変化などに弱いものになりやすいといわれています。



アサガオの花のつくり